「シンセサイザーの教育実践への活用」

領域名：在宅保健看護

報告者：永野　佳世

教育及び実践の課題

近年、在宅ケアには多様な疾患を有する幅広い発達段階の対象者が増加し、訪問看護ステーションの需要も加速している。本学の旧カリキュラムでは 1 単位で展開していた在宅保健看護実習も、R7 年度から 1 単位の演習と 2 単位の実習に変更されている。これまでは 1 週間の実習期間で学生はアセスメントから看護展開まで駆け足で行ってきたが、多様な背景を持つ対象者の生活とニーズをより深く適切に把握するためにはどのような工夫ができるのかという課題があった。そこで、在宅保健看護実習におけるニーズアセスメント方略について検討することを目的に文献を検討した。

活用した論文の概要

本研究では、オランダの訪問看護師によるニーズアセスメントの実践のばらつきについてデルファイ研究を用いて定義し、ニーズアセスメントにどのような要因が関与しているかを探索していた。その結果、ニーズアセスメントに影響している 59 の要因のうち不当とされた 26 項目中 17 項目は訪問看護師の状況に関連したものであった。それらのアセスメントの不当なばらつきについて、エビデンスとガイドラインの使用により、実践のばらつきが軽減される可能性があると述べられているが、一方で訪問看護を必要とするクライアントのほとんどは併存疾患を抱えており、単一のガイドラインの使用は限定的であることも述べられていた。

教育及び実践への活用

R7 年度は、新カリキュラムとして演習を実習前に配しており、対象者のニーズ把握のための事例を用いた看護過程を展開した。また、多様な背景を持つ対象者に対する総合アセスメントの指標についても振り返り、各アセスメントの指標も確認し、実習中にも容易に取り出して確認できるよう Web 上の共有フォルダ―に保存しアクセスしやすい環境を作るよう心がけた。さらに、事例のニーズ把握の上、看護計画をロールプレイで実施する際は、教員が対象者として参加し、学生の立てた計画が真に対象者のニーズに沿っているのかについてフィードバックを行った。実践が生活ニーズに合致し妥当と考えられるよう修正を検討してもらい修正のロールプレイを実施した。

演習後の 2 週間の実習では、小児から高齢者、慢性疾患を持つ対象者から看取り期の対象者まで多様な対象者への看護展開に学生はそれぞれ取り組んでいた。各学生のニーズアセスメントが妥当であったのか、課題があったかについて、今後引き続き領域内で検討し、本学における在宅保健看護実習のニーズアセスメント方略についての確立を目指していく。

参考文献

Van Dorst, J. I. E., Schwenke, M., Bleijenberg, N., De Jong, J. D., Brabers, A. E. M., & Zwakhalen, S. M. G (2023) Defining practice variation and exploring influencing factors on needs assessment in home care nursing: A Delphi study Journal of Advanced Nursing.;79, 3426–3439.

2025 年 9 月 26 日作成